

令和8年度 印西市民アカデミーだより 第4号

講座 5 : 印西の歴史について学ぶ

6月12日（金）、木下交流の杜歴史資料センター所長を講師に迎え、印西の歴史について学びました。講義では、鎌倉～江戸時代の「日本の出来事」と「印西市の出来事」を比較しながら、クイズも交えてわかりやすく紹介していただきました。

各時代の政治や文化の流れとともに、印西市の仏堂・仏像の造立（鎌倉～戦国）、神楽や獅子舞の奉納（室町～江戸）、木下河岸の水運の発展（江戸）など、地域ならではの歴史を学びました。実際に使われている獅子頭や太鼓を見られたことも貴重な体験でした。現在ではこのような伝統文化の継承が難しくなっていることもあり、守り伝えていく大切さを感じる時間となりました。



「八幡神社の獅子舞」獅子頭と太鼓



■鎌倉時代…幕府の成立や元寇などがありました。それまでの価値観の変化から仏教が武士や庶民に広まった時代です。印西市は北条実時が治める公領地として「印西條」「^{はぶ}埴生西條」と呼ばれました。この時代には結縁寺の不動明王像や地藏寺の地藏菩薩など後に文化財となる仏像がつくられました。

■室町時代…南北朝の争いや応仁の乱など動乱が続く一方、京都を中心として北山・東山文化が栄えました。印西市は佐々木氏と千葉氏の対立の後、千葉氏が支配していました。中根の鳥見神社では市内で最古と考えられる神楽の奉納が始まり、現在も県指定無形民俗文化財として受け継がれています。

■戦国・安土桃山時代…戦乱の中で天下統一が進んだ時代です。印西市では小林城・笠神城・師戸城などの自然の地形を利用した山城が築かれ、地域の拠点として機能しました。また、小倉・岩戸・角田には国指定重要文化財である三つの仏堂が建立されました。

■江戸時代…幕藩体制のもと平和が続き、町人文化が発展しました。印西市は幕府直轄地として印西牧や木下河岸、木下街道により物流の拠点として栄えました。さらに、「浦部の神楽」や各地区の獅子舞など、市・県指定の民俗文化も受け継がれています。また、9月に訪れる予定の松戸市・戸定邸については、屋敷の一部「使者の間」が、かつて印西市に存在していたことが紹介されました。「使者の間」には、“縁起の良い生き物”の姿が彫られているそうです。現地での答え合わせが楽しみです。

